



e-La Voz  
「エー・ラ・ボス」と読みます

HCJB『アンデスの声』  
日本語放送  
メールマガジン  
(第46号)

2006年12月22日発行

## センチメンタル・ジャーニー(キト版)

北米テキサス州のヒューストンを真南に飛び立つと、5時間余で南米大陸の赤道にやってきます。アンデスにちりばめられたダイヤモンドの輝きをみせるキト市に夜遅く着いたのに、孫娘ふたりが＜Welcome Papa＞と自分たちで書いたサインを手にかかげて迎えてくれました。(父親はDaddyとよばせています)

一夜明けるや、まず近くの青空市場へ食料調達。ところ狭しと並んだ屋台には、とりたての野菜や果物がどっさり。飛び交う売る人、買う人の声は、ムード音楽の流れるスーパーとは対照的で、衛生的ではないにしても、そこには自然に育まれたくましく生きる人々の匂いを感じました。

久子の追悼式に先立って、HCJB放送局構内に会長、放送局長はじめ関係者が集まりました。私たちが日本語オフィスとして長年親しんできた建物が『久子記念館』と命名されることになり、その銘板を壁にはめこむ除幕式が行われたのです。「これはぜひ久子に見せたいので、写真を。。。」と思わず言ってしまいそうになりましたが、久子はきっと「まあ、私の名前が。。。」とはにかんでいることでしょう。

教会での追悼式では、孫娘リンダ(7歳)の詩篇23篇の朗読ではじまり、ビデオによる久子の思い出アルバム、アンマリーの独唱、ホルヘ&道夫の演奏、HCJBクワイアの合唱、訪日経験のあるアレンHCJB副会長のメッセージなどが続き、私にとって天国に迎えられた久子をもういちど自分に言い聞かせる貴重なひとときとなりました。ひとりの生命が失われることで、こんなにも多くのひとびとから慰めと励ましを いただけることに、神の家族につながるものとしての幸せをかみしめることができました。



キト祭(12月6日)恒例のHCJBコンサートは、二千名収容の市立文化会館で三日間開かれました。国立ジュニア・オーケストラと百名のHCJBコワイアの演奏でクリスマスの曲やキトを讃える歌の数々に聴衆は興奮と熱気でわきかえりました。今年はHCJB75周年なので記念にとクワイアに加えてもらい、道夫の指揮によるフルサウンドの演奏に声をはりあげました。

翌日、骨休めに道夫家族とアンデスを下って太平洋岸へ。有機栽培によるバナナ栽培で日本でも有名になった田辺農園にも立ち寄り、拡張中の農園を見学しました。半世紀近い移住生活を親子二代で頑張っておられます。

一直線にひろがる海と空、朝早くリンダと貝拾いに出かけました。桜貝の歌を久子と歌ったことを話してきかせると、砂の上に久子の名前を書いてくれました。しばらく歩いてふりかえると、打ち寄せる波で文字は消され、残るは波の音だけでした。にじみ出る涙をリンダは気付かませんでした。

HCJB短期大学で『日本文化』について2時間の講義をしたあと、お茶によばれました。なんとそこには、HCJB前会長、副会長、オフィスが隣り合わせだったドイツ語部のスタッフなどが部屋に集まっていました。「Happy Birthday to YOU!」私の74年の生涯で、生まれてはじめてケーキの上に立てられたローソクを一息でふき消すという貴重な体験をさせてもらいました。何を願ったかは内緒です。

「アンデスの声」でお手伝いいただいた内田さんの家では、つもる話に時間が足りないほどでした。日本食をご馳走になりながら私にもできるホームクッキングの手ほどきをうけました。「エクアドル音楽をどうぞ」のホルヘさんはCDを出されたとのことで特別番組を放送中で、スタジオのガラス越しにあいさつを送り

ました。「DXパーティー・ライン」のアレンさんは会うやいなやスタジオに連れ込まれ番組を録音、12月30日には放送されるそうです。HCJBは国際放送も英語番組が今年5月で終了しました。HCJBの主流はキトから出てもっとグローバルな地域に広がりをみせています。75周年を節目にHCJBは21世紀にふさわしいかたちに変わりつつあります。しかし、変わることのないメッセージを伝える(voice)ことと愛の手をさしのべる(hand)ことは新しいロゴとともにこれからもさらに積極的にすすめられていくことでしょう。

HCJB日本語放送担当

在主 尾崎一夫

## HCJB日本語放送(オーストラリア送信):

放送日時： 毎週土曜日、日曜日  
日本時間 0730 - 0800 (2230 - 2300UTC)  
送信周波数： 15525 kHz (19mb)  
受信報告書の宛先： 〒169-0073  
東京都新宿区百人町1-17-8  
淀橋教会HCJB係  
(※返信用に80円切手を2枚同封して下さい)

## 【ホームページのご案内】

HCJB日本語放送のホームページ(<http://japanese.hcjb.org/>)には、リスナー・コミュニケーションのためのふれあいコーナー「[フォーラム](http://japanese.hcjb.org/forums/)」(<http://japanese.hcjb.org/forums/>)と、メールマガジンのバックナンバーを揃えた「[メールマガジン e-La Voz らいぶらり](http://www.hcjb.org/japanese/mmz/)」(<http://www.hcjb.org/japanese/mmz/>)のページがあります。どうぞご利用ください。

このメールマガジンは、HCJB日本語放送の管理するメール・リストに登録されている方に無料でお送りしています。このメールマガジンをご覧になってのご感想やご意見、ご要望などは、[HCJB日本語放送](#)までお送りください。

また、このメールマガジンの配信停止、配信先変更、あるいは新規ご登録も[HCJB日本語放送](#)までメールにてお知らせください。なお、メール・リストは配信先メール・アドレスのみで管理されていますので、配信先変更をご希望の場合には、現在登録されている配信先も併せてお知らせください。

Copyright © 2006 by HCJB. All rights reserved.



日本語ホームページ: <http://japanese.hcjb.org/>

Eメール: [kozaki@hcjb.org](mailto:kozaki@hcjb.org)

郵便の宛先:

Mr. Kazuo Ozaki

1920 Berkshire Pl., Wheaton, IL 60187-8050, U. S. A.